



再生用証明の自動エクスポートを設定する方法

Dynamic Signage Director

ソフトウェアリリース：5.0.0-123 以降

初版：2016年10月10日

目次

- はじめに、1 ページ
- 要件、2 ページ
- 必要な設定、2 ページ
- オプション設定、4 ページ
- ワークフローの概要、4 ページ

はじめに

再生用証明(PoP)の自動エクスポート機能が役に立つのは、Cisco Vision Dynamic Signage Director の PoP CSV データを他のツールやアプリケーションで使用するときです。

PoP をスクリプト向けに有効化すると、概要と詳細な PoP データ(CSV 形式)がセキュア FTP(SFTP)またはセキュア HTTP(HTTPS)を使用している指定のサーバへ自動的にエクスポートされます。

自動エクスポート機能をシステム全体で有効化し、スクリプト向けに PoP を有効化すると、コントロール パネルの再生用証明の画面上にある新規の「送信済」列でエクスポート機能のステータスを確認できます。緑色のアイコンはデータが送信されたことを示します。赤色のアイコンは送信が失敗したことを示します。

送信失敗時の再試行動作

スクリプトの実行から 30 秒(デフォルトの [遅延自動アップロード(Delay Auto Upload)] 時間)を経過すると、システムが自動的に指定サーバに PoP データをエクスポートします。送信が失敗すると、次の動作が実行されます。

- システムは最初に 3 回(または、[PoP アップロードの再試行回数(Pop Upload Retry Count)] プロパティに指定された数)まで再試行します。
- 最初の再試行後に PoP のエクスポートを失敗すると、[システム タスク(PofpUploadRetryTask)] がバックグラウンドで起動し、失敗したプロセスを検出します。
- システム タスクは PoP データのエクスポートを最大 50 回(または、PoP アップロードの[最大再試行回数(Max Pop Upload Retry Count)] プロパティに指定された数)まで再試行し続けます。

注: PoP の自動エクスポートが有効化されている場合、標準 PoP レポート機能が Cisco Vision Dynamic Signage Director リリース 5.0 でも使用可能です。PoP 自動エクスポートが有効化されている場合、手動でレポート作成する必要はありません。

要件

要件

- SFTP または HTTPS のネットワーク上のサーバを、PoP データの宛先サーバとして使用できます。
- ユーザ アカウントを設定し、宛先サーバのパスを使用できます。

必要な設定

1. Cisco Dynamic Signage Director に管理者としてログインします。
2. 管理ダッシュボードから、次のように操作します。

[Dynamic Signage Director 設定 (Dynamic Signage Director Configuration)] > [システム設定 (System Configuration)] > [Popf のエクスポート設定 (Popf Export Settings)]

3. [自動アップロードの有効化 (Enable Auto Upload)] プロパティを [True] に設定し、その他の必要な共通プロパティを設定します。

図 1 管理ダッシュボードの PoP エクスポートに必要な設定

Configuration Property	Value
Enable Auto Upload	true
Delay Auto Upload(in sec)	30
Pop Upload Retry Count	3
Max Pop Upload Retry Count	50
Enable Compressed Report	false
File Transfer Protocol	sftp
Destination User Name	pop
Destination Password	*****

1	[自動アップロードの有効化 (Enable Auto Upload)]: True の値を入力します。	2	[ファイル転送プロトコル (File Transfer Protocol)]: SFTP または HTTPS の値を入力します。
3	[接続先ユーザ名 (Destination User Name)]: データがエクスポートされる宛先サーバのアカウントのユーザ名を入力します。	4	[接続先パスワード (Destination Password)]: データがエクスポートされる宛先サーバで指定したアカウントのユーザ名に対応するパスワードを入力します。

必要な設定

4. 次に、[共通設定(Common Settings)] の [ファイル転送プロトコル(File Transfer Protocol)] プロパティに基づいて、[HTTPS 設定(HTTPS Settings)] または [SFTP 設定(SFTP Settings)] へ移動し、設定を完了します。

図 2 HTTPS のプロパティ

Dynamic Signage Director Configuration	
Configuration Property	Value
Secure Web Address	https://10.194.170.131:7443/secure_http/uploadReport
Accept Self Signed Certificate	true

1	[セキュアなウェブ アドレス(Secure Web Address)]: IP アドレスや宛先サーバのパスなどの HTTPS URL を入力します。	2	[自己署名証明書の承認(Accept Self Signed Certificate)]: True (デフォルト)または False の値を入力します。
---	--	---	---

図 3 SFTP のプロパティ

Dynamic Signage Director Configuration	
Configuration Property	Value
File Server IP Address or FQDN	10.194.173.108
File Server Port	22
File Server Relative Folder Path	/

1	[ファイル サーバの IP アドレスまたは FQDN(File Server IP Address or FQDN)]: データがエクスポートされる宛先サーバの IP アドレスまたは完全修飾ドメイン名(FQDN)を入力します。	2	[ファイル サーバのポート番号(File Server Port)]: 22 の値(標準 SFTP ポート番号)、またはご使用のサーバに必要な他のポート番号を入力します。
3	[ファイル サーバに関連するフォルダ パス(File Server Relative Folder Path)]: サーバのホーム ディレクトリに関連するフォルダ パスを指定します。「/」の値を指定すると、サーバのホーム ディレクトリのパスでデータを保存します。「/mypopdata」の値を指定すると、「/mypopdata」という名前のホーム ディレクトリ上のサブフォルダにデータを保存します。		

5. 設定を保存します。

オプション設定

このセクションでは、PoP の自動エクスポートに設定できるオプション設定について説明します。

図 4 管理ダッシュボードの PoP エクスポートのオプション設定

Configuration Property	Value
Enable Auto Upload	true
Delay Auto Upload(in sec)	30
Pop Upload Retry Count	3
Max Pop Upload Retry Count	50
Enable Compressed Report	false
File Transfer Protocol	sftp
Destination User Name	pop
Destination Password	*****

1	[遅延自動アップロード(秒)(Delay Auto Upload (in sec))]: (スクリプト終了後に)宛先サーバにデータがエクスポートされるまでシステムが待機する秒数です。デフォルトは 30 秒です。	2	[PoP アップロードの再試行回数(Pop Upload Retry Count)]:スクリプト完了後、システムが最初に PoP データを宛先サーバにアップロードする回数です。デフォルトの再試行回数は 3 です。
3	[PoP アップロードの最大再試行回数(Pop Upload Retry Count)]: バックグラウンドの [システム タスク(PopUploadRetryTask)] システムタスクが宛先サーバへの転送を失敗した PoP データのアップロードを再試行する最大数です。デフォルトの再試行回数は 50 です。	4	[圧縮レポートの有効化(Enable Compressed Report)]: True の値にすると、送信する PoP レポート データの圧縮を有効にします。デフォルトは False です。

ワークフローの概要

このセクションでは、PoP 自動エクスポートの設定と運用ワークフローを説明します。

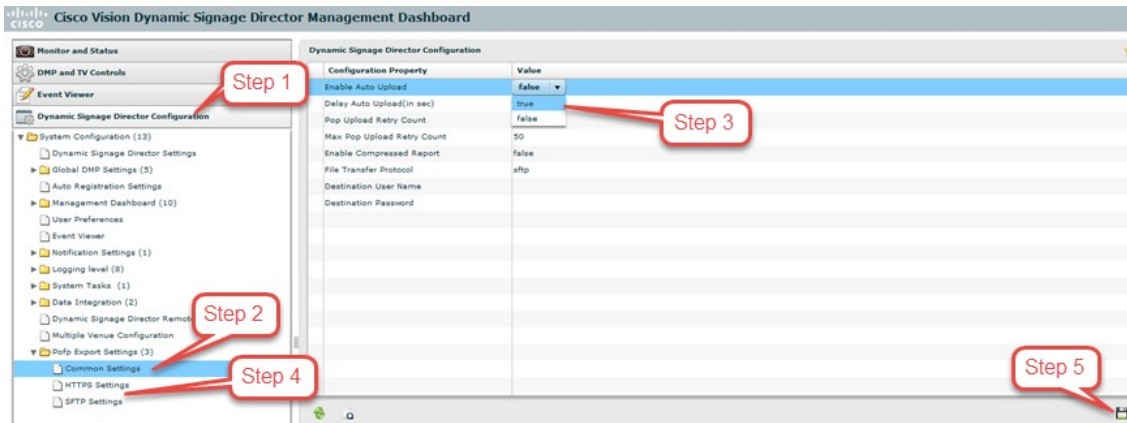
管理ダッシュボードのワークフロー

サポートされるユーザ ロール

- 管理者 (Administrator)

PoP 自動エクスポート機能を有効化すると、管理ダッシュボードからシステム全体ですべてのスクリプトを設定できます。

ワークフローの概要



1. 管理ダッシュボードから、[Dynamic Signage Director の設定 (Dynamic Signage Director Configuration)] に移動します。
2. [Pofp エクスポート設定 (Pofp Export Settings)] > [共通設定 (Common Settings)] を順にクリックします。
3. 必須プロパティを設定し、(必要であれば) オプション プロパティを設定します。
必要な設定、2 ページとオプション設定、4 ページを参照してください。
4. 宛先サーバの [ファイル転送プロトコル (File Transfer Protocol)] の種類を基に、[HTTPS の設定 (HTTPS Settings)] または [SFTP の設定 (SFTP Settings)] を設定します。
5. 設定を保存します。

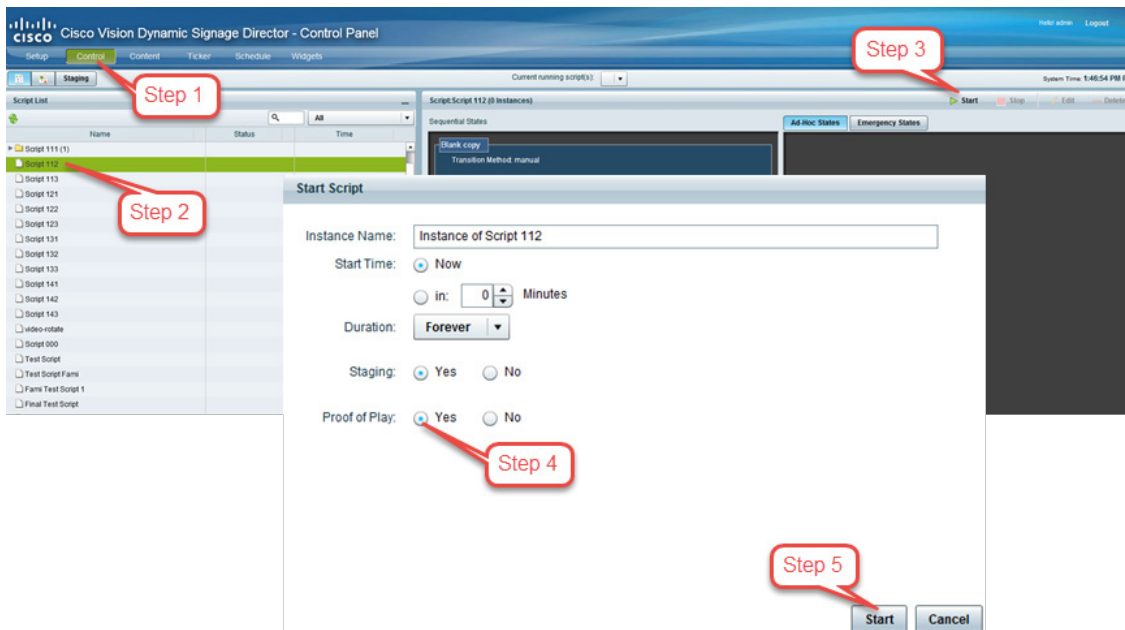
コントロール パネル: コントロール ワークフロー

サポートされるユーザーロール

- 管理者 (Administrator)
- イベントオペレータ (Event Operator)
- 開催地管理者 (Venue Administrator)
- 開催地オペレータ (Venue Operator)

再生用証明は、コントロール パネルのスクリプト向けに有効化されています。PoP 自動エクスポート機能は全体的に有効化されている必要があり、再生用証明も PoP レポートを生成してエクスポートするスクリプト向けに有効化されている必要があります。

ワークフローの概要



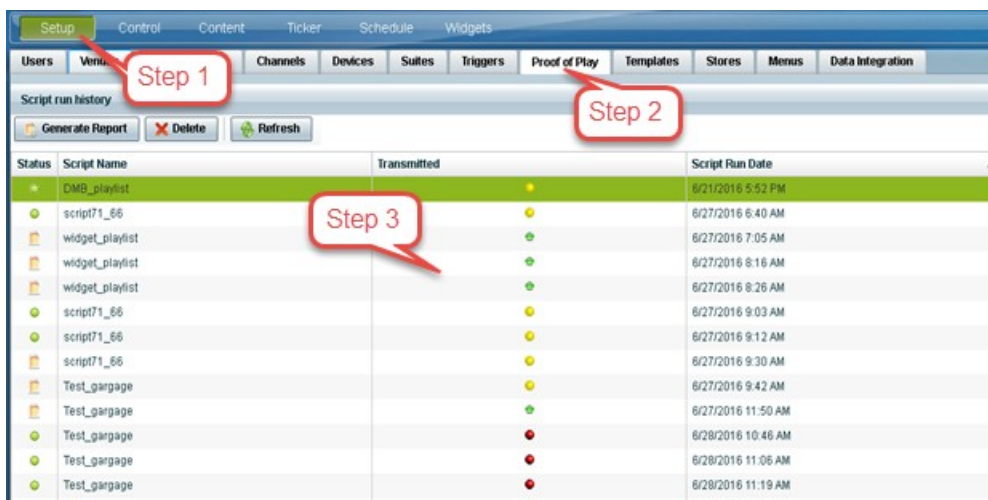
1. コントロール パネルから、[コントロール(Control)] に移動します。
2. 適切なスクリプトを選択します。
3. [開始(Start)] をクリックします。
4. 再生用証明を [はい(Yes)] に設定します。
5. [開始(Start)] をクリックします。

コントロール パネル: 設定ワークフロー

サポートされるユーザ ロール

- 管理者 (Administrator)

コントロール パネルの [設定 (Setup)] 画面へ移動し、PoP レポートのエクスポート ステータスを確認します。



ワークフローの概要

1. コントロール パネルから、[設定 (Setup)] に移動します。
2. [再生用証明 (Proof of Play)] をクリックします。
3. [送信済 (Transmitted)] の列で、スクリプト向け PoP レポートのエクスポート ステータスを確認します。

ボタンの色	説明
緑	エクスポートは成功しました。
黄	エクスポートは処理中です。
赤	エクスポートに失敗しました。

ワークフローの概要

このマニュアルに記載されている仕様および製品に関する情報は、予告なしに変更されることがあります。このマニュアルに記載されている表現、情報、および推奨事項は、すべて正確であると考えていますが、明示的であれ黙示的であれ、一切の保証の責任を負わないものとします。このマニュアルに記載されている製品の使用は、すべてユーザ側の責任になります。

対象製品のソフトウェア ライセンスおよび限定保証は、製品に添付された『Information Packet』に記載されています。添付されていない場合には、代理店にご連絡ください。

シスコが導入する TCP ヘッダー圧縮は、カリフォルニア大学バークレー校 (UCB) により、UNIX オペレーティング システムの UCB パブリックドメイン バージョンの一部として開発されたプログラムを適応したものです。All rights reserved. Copyright © 1981, Regents of the University of California.

ここに記載されている他のいかなる保証にもよらず、各社のすべてのマニュアルおよびソフトウェアは、障害も含めて「現状のまま」として提供されます。シスコおよびこれら各社は、商品性の保証、特定目的への準拠の保証、および権利を侵害しないことに関する保証、あるいは取引過程、使用、取引慣行によって発生する保証をはじめとする、明示されたまたは黙示された一切の保証の責任を負わないものとします。

いかなる場合においても、シスコおよびその供給者は、このマニュアルの使用または使用できないことによって発生する利益の損失やデータの損傷をはじめとする、間接的、派生的、偶発的、あるいは特殊な損害について、あらゆる可能性がシスコまたはその供給者に知らされていても、それらに対する責任を一切負わないものとします。

このマニュアルで使用している IP アドレスおよび電話番号は、実際のアドレスおよび電話番号を示すものではありません。マニュアル内の例、コマンド出力、ネットワークポロジ図、およびその他の図は、説明のみを目的として使用されています。説明の中に実際のアドレスおよび電話番号が使用されていたとしても、それは意図的なものではなく、偶然の一致によるものです。

ハード コピーおよびソフト コピーの複製は公式版とみなされません。最新版はオンライン版を参照してください。

シスコは世界各国 200 箇所にオフィスを開設しています。各オフィスの住所、電話番号、FAX 番号は当社の Web サイト (www.cisco.com/go/offices) をご覧ください。

Cisco および Cisco ロゴは、シスコまたはその関連会社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。シスコの商標の一覧は、www.cisco.com/go/trademarks でご確認ください。掲載されている第三者の商標はそれぞれの権利者の財産です。「パートナー」または「partner」という用語の使用はシスコと他社との間のパートナーシップ関係を意味するものではありません。(1110R)

Google、Google Play、Android、その他の商標は Google Inc. の商標です。

© 2016 Cisco Systems, Inc. All rights reserved.